

# 古里盛岡で8年ぶりの個展

盛岡市出身でフランス在住の画家、宇津宮功さんの個展が、盛岡市本町通1丁目8の22のインプレクサス・アート・ギャラリーで開かれている。古里盛岡では約8年ぶりの個展。近年の「Danse de Non-Lieu(ダンス・ドゥ・ノン・リュ)＝舞態(まいたい)」「非・場 舞態」シリーズの新作を中心に、油彩のシリーズによる1970年代の初期作品「折りたたまれた人間達147」も交えて展示している。14日まで。

## 浮動する世界描写

### D・N・Lシリーズ新作など

フランス在住の  
宇津宮功さん

1967年に渡仏し、56年になる宇津宮さん。西欧文化に身を置き、社会や芸術のさまざまなムーブメントを体験してきた。

「根を張る」ことに反する意味を持つ「Non-Lieu(非・場)」シリーズは、「舞態」というキーワードを得て、目に見えない意識を含めて人や自然が常に流動し、浮動する世界を描いてきた。

展示作品は2023年の新作を中心にした20点。

キャンバスにアクリルで描いた2023年の「D・N・L」シリーズには一つ一つ番号が付けられ、新たに「SOUVENIR LOINTAIN(スプニール・ロワントアン、遠

のく思い出)」の副題が添えられたものも。

画面に大きく描かれた縦長の円の中には、人体の脚の一部分が逆立ちするように、あるいは交差するように描かれているが、その形や色に定形はない。さまざまなものが入れ替わり立ち代わり表出する中に、「一人の人間の軌跡」を込めたという。

肉体が減んで関係が切れても、思い出は消えることなく、ときには膨れ上がった次の人に継承される。変化する画面と向き合う作者が筆を止めるときは、

「食事を終えるような感覚」と独特の制作姿勢をのぞかせる。

「非・場 舞態」シリーズでは、人の顔や身体の部分などを多く組み合わせ、多様性を描いてきたが、新作には人の脚が繰り返し登場する。「単純である

こと」で、より明解に伝えられるものもあるのではないかと今後の方向性を示した。

宇津宮さんは194

5年生まれ。武蔵野美術大卒業後に渡仏。パリを拠点にヨーロッパの画廊で作品を発表。仏、日本の美術館などに

に作品が収蔵されている。

午前11時半から午後6時半。電話019-625-6380。



「D・N・L」シリーズの新作を発表している宇津宮功さん